

出品区分	1企業の部 ・ ②一般の部		受付番号	56
ふりがな	ながひさしんこう ほうし そうち			
作品の名称	害獣侵入防止装置			
ふりがな	ながひさ	ふりがな	ながひさこういち	
会社名	ながひさ材料ケック	発明者名	長久巧一 他 2名	
出願状況	<input type="checkbox"/> 未出願	出願番号	特許・実用・意匠 2025 000230	7年 4月 22日
	<input type="checkbox"/> 出願済	公開番号	特許公開	年 月 日
		登録番号	特許・実用・意匠 第 号	年 月 日

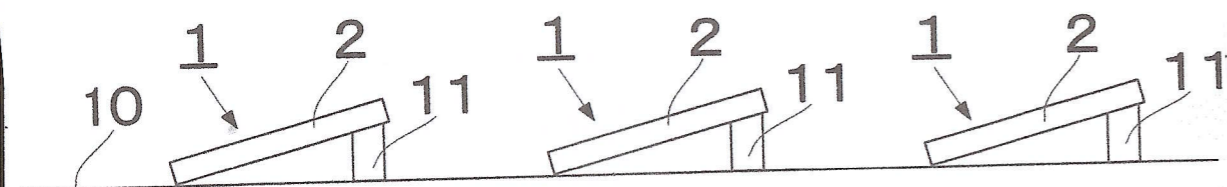
本考案は、害獣の侵入を防止する害獣侵入防止装置に関する。

【背景技術】

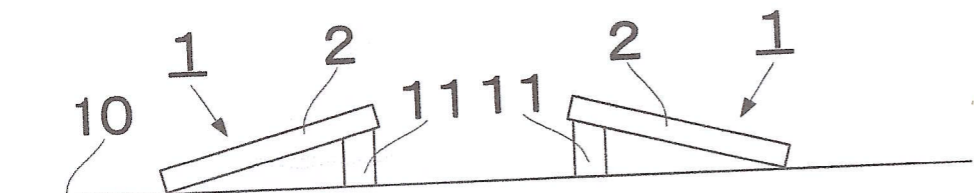
【0002】

近年において、野生動物の人間の生活空間への侵入が問題になっている。特に、いわゆる里山の周辺にある果樹園等に野生動物が侵入して、果樹を荒らすことが問題になっている。この場合、その野生動物、例えば、熊、猪、鹿等は害獣と呼ばれる。そして、害獣の人間の生活空間への侵入を防止する害獣侵入防止装置が求められている。

害獣の侵入予定方向



害獣の侵入予定方向



なお、本考案の考案者は、約30年前から、ハニカム構造を活用した人工スキーゲレンデの開発を行って、4件の特許出願を行っている。考案者は、そのハニカム構造を活用した人工スキーゲレンデから本考案のヒントを得ている。すなわち、考案者は、犬が人工スキーゲレンデのハニカム構造の窪みの上を歩くのを嫌がる様子を見て、害獣対策にも生かせると考えたのである。もっとも、人工スキーゲレンデと害獣侵入防止装置とは、技術分野、目的、作用及び効果が全く異なるので、人工スキーゲレンデから害獣侵入防止装置を着想することは、当業者においても容易ではない。

また、人工スキーゲレンデの開発については、その有用性が認められて、平成2年3月31日に、新技術事業団（現在の科学技術振興事業団）から、研究費の助成（「スキーの人工ゲレンデの理論の応用」整理番号89340）を受けている。本考案は、前記研究の言わば副産物であるので、新技術事業団の助成を受けていると言える。そのことについて感謝を申し上げたい。

熊よけにハニカム構造？

夜間に活躍する野生の動物たち

ながひさ歯科クリニック 長久巧一

電子工学 音響工学 関谷信一 波多巖木工所 波多雅一 富山県新世紀産業機構

●どんな実験なの

令和6年に熊が指定鳥獣に指定され、冬眠前に餌をもとめて人里に下りてくる熊「アーバンベア」の世界と人間の世界が共存できる境を作る方法がないか「新聞のニュース」で知り考えました。

令和6年暖冬の正月、山には餌が不良で鹿、熊、イノシシ、ハクビシンなど被害が多くありました。砺波市の鳥獣被害防止協議会で電気柵の修理に同行の機会があり、その時私の方法を説明すると大歓迎を受けました。

熊はねこ科に分類され足の裏は柔らかな肉球を持ち、この足の裏の弱点を熊に学習させ人間の世界へ入らないような「誘導させる方法」に至りました。友人（溝口君）の紹介で南砺市にある波多巖木工所が暗視カメラで観察していると聞き木製と鉄工所の鉄製のものと共同で近くのけもの道に並べて実験しました。当初クルミを食べる熊の様子がNHKとアメリカのBBCに放送されたそうです。

その後成果は今のところ不確定ですが、熊の気配が無いときは、その動画にはびっくりするほど多くの動物も映っていました。それも紹介します。

●用意する物

8千円ぐらいの暗視・遠赤外線カメラ パソコン

●熊の好きな食べ物

クルミ、どんぐり、果実、魚、ふかひれ、農機具の油、ブナの木油脂、人間の食べ残し、特にハチの巣の蜜、蜂の巣の構造「ハニカム構造」のゼラチン質…蜂の構造は私の開発したスキーゲレンデの表面と同じでひらめいた物です。

この構造は六、八角形で上下2重のピラミッドの空間を持ち次のダンボールの廃棄物利用につながります。

●熊の嫌がること？

- 1、熊の前で傘、竹、木材を広げて大きく見せる？…江戸、明治時代は竹で格子を作ったと聞きます。
- 2、小さな蜂の巣のハニカム構造の木枠10×10cmの1平方メートル四方の立体像が大きく見えて威嚇する事に成るのかな？
- 3、死んだふりして動かないこと？…弱い立場の羊は集団で死んだふりをします。
- 4、足の裏の肉球に傷をつける事、足が挟まる時、骨折、ねじれる事…犬、猫は近よらない・実証済み
- 5、鈴を鳴らしたり、除草剤をまく・犬の臭覚より優れている、…人の存在を教える事、現在人の耳に聞こえない音「音響」、光でいろいろな企業が探索中。
- 6、平地より凹凸の坂道が好きらしい 7、その他

●格子状のゲレンデの表面と新聞の記事

令和5年12月30日
左 富山新聞
令和6年11月27日
右 北日本新聞

